

眼底検査

眼底は身体の中で唯一、血管を直接観察できる場所です。眼底の血管の状態は脳の血管と似た状態を示します。眼底検査は眼の病気の他、高血圧や動脈硬化の進行度、糖尿病などの発見の手がかりになります。

<Scheie分類>

高血圧によって起こる眼底の変化を高血圧性変化(H)と細動脈硬化性変化(S)に分けて1～4度に分類したものです。

硬化性変化(S所見)

高血圧性変化(H所見)

	正常	正常
0		
1度	動脈の血柱反射が増強している。 軽度の動静脈交叉現象が見られる。	網膜動脈が正常より細い。
2度	動脈血柱反射が高度増強している。 動静脈交叉現象が中等度となる。	網膜動脈が細くなる。1本の動脈に太い部分と細い部分ができる。(口径不同となる。)
3度	銅線動脈となる。(血柱反射増強に加え、色調と輝きも変化して銅線状になる。) 動静脈交叉現象が高度となる。	動脈の狭細と口径不同はさらに著明となり、糸のように見える。網膜面に出血と白斑が見られることもある。
4度	銀線動脈となる。(血管壁が濁って不透明になり血柱が隠れ、血管が白く見える。)	第3度の所見に加えて、乳頭の腫れが見られる。

<Keith-Wagner(KW)分類>

高血圧によって起こる眼底の変化をI～IVに分類したものです。

	眼底所見
0	正常
I群	眼の細動脈が細く固くなる。
II群	I群に比べ細動脈が細く固くなる。
III群	著明な細動脈の緊張亢進があり、動脈の変化は広くはっきりする。 眼底の動脈が細くなり、網膜が腫れたり、出血などが見られる。
IV群	細動脈は細くなり、動脈と視神経を通る乳頭の腫れが認められる。